

令和 6 年度 of 取組内容

差別解消

障害者差別解消法ポスター・ちらしの配布

障害者差別解消法の改正をお知らせするポスター掲示および市内事業者に向けてちらしを作成。同じ内容を佐倉市ホームページにも掲載するとともに、イオンタウンユーカリが丘店西館 1 階に設置するデジタルサイネージにも表示し、市内事業者に向けて障害者差別解消法の改正を周知しました。

※参照：参考資料 1

また、成人式にて、障害者差別解消法の啓発リーフレットを新成人へ配布しました。



佐倉市職員研修

◆新規採用職員研修「障害福祉・障害者差別解消法について」(R6.10.10)

新規採用職員を対象とした研修を実施。市職員が障害を正しく理解し、適切な対応を行えるよう、具体的な事例や当事者の声を紹介するとともに、障害に関する基礎知識や接遇時における配慮のアイデアなどについて紹介しました。

◆職員研修「障害福祉・障害者差別解消法について」(R7.2.25 予定)

障害のあるかたが市役所の窓口などを利用される際に、不安や不快な思いをしないで、主体的に用件を済ませることができるよう、職員の対応力の向上を図ることを目的とした研修を実施します。

(講師) 広報課職員、障害福祉課職員

佐倉市障がい者団体等連絡会 黒田 聡氏

市民相談員・心配ごと相談員合同研修会（R6. 8. 28）

市民相談員（市設置）及び心配ごと相談員（佐倉市社会福祉協議会が設置）に、障害者差別解消法の周知、不当な差別的取扱いの禁止や合理的配慮の提供の具体例を通じて、相談があった際の対応等について周知しました。

志津南部地区民生委員・児童委員協議会 定例会（R6. 10. 12）

民生委員・児童委員に、障害者差別解消法の周知、不当な差別的取扱いの禁止や合理的配慮の提供の具体例を通じて、相談があった際の対応等について周知しました。

障害者虐待防止 事業者向け研修（R6. 10. 21）

施設従事者による障害者虐待に至る要因・プロセスや障害特性・障害福祉サービス種別にあわせた虐待防止策について事業者向け研修を実施しました。

実際に起きた虐待の事例をご紹介いただきながらその背景や防止策、そして万が一、虐待が発生してしまった際の対応についてご説明いただきました。参加者 77 名

（講師）

佐久間 水月 弁護士（千葉県障害者総合支援協議会権利擁護専門部会委員）

市民カレッジ第3学年あったか福祉コース「聴覚障害を理解する」（R7. 1. 17）

市民カレッジにて、聴覚障害のある人と共に、障害についての基礎知識や障害者差別解消法についての研修を行いました。

（講師）障害福祉課職員

佐倉市ろう者協会 佐藤 近延氏

千葉県中途失聴者・難聴者協会 印旛事務所 伊藤 京子氏

障害者差別解消法に関するアンケート調査の実施（R6. 12. 26-R7. 1. 17）

（目的）

事業者が対応を検討する「合理的配慮」について、障害のある方の声をお届けすることで、企業等においてより良い配慮についての検討がなされること

（協力） 佐倉市障がい者団体等連絡会

※参照：資料2、資料3

パリ 2024 パラリンピック開催に伴う情報発信

❖「こうほう佐倉」への掲載

- ・2024年8/15号 佐倉市在住の選手がパリ2024パラリンピックに出場します
- ・2024年10/15号 パリ2024パラリンピック佐倉市在住選手の活躍
- ・2025年2/15号 市内在住のパラリンピック出場選手が小学校で授業を行いました



❖イオンタウンユーカリが丘でのパネル展示「佐倉からパリへ 二人のパラリンピアン」

パリ2024パラリンピック（期間：8月28日～9月8日）に出場した山崎 晃裕 選手、松本 卓巳 選手のインタビューを展示し、お二人への応援を呼びかけました。



❖市ホームページでのインタビュー掲載

上記パネル展示の内容を市ホームページに掲載し、市内外へ情報発信を行いました。

❖市内小学校での授業実施（人権デリバリー講座・パラバドミントン体験教室）

パリ2024パラリンピックに出場した山崎晃裕選手（陸上競技やり投げ）、松本卓巳選手（バドミントン）が市内小学校で子どもたちに授業



VR 体験で理解する発達障害

「パラスポーツと心のフェスティバル」(12月7日)内でVR機器を活用し、発達障害の特性の一つ「聴覚過敏」を多くの方々に体験していただきました。

現在、市ホームページに、体験したかたの感想を掲載しています。



東京 2025 デフリンピックに向けた情報発信

◆長内智さんインタビュー

来年日本で開催される東京 2025 デフリンピックを目指されている長内智選手(陸上競技)に大会への意気込みなどを取材し、ホームページに掲載しました。

■東京 2025 デフリンピックについて

デフリンピックは国際ろう者スポーツ委員会(ICSD)が主催する、デフアスリートを対象とした国際大会で日本では初めての開催になります。

(2025年11月15日~26日)

長内 智 選手

デフ陸上競技/株式会社YAGACA Lab.

Profile

陸上競技選手として、長年活躍されている長内選手は、2019年に開催された東京2020パラリンピックで、男子100mの金メダルを獲得されました。また、2022年に開催されたアジアパラ競技大会でも、男子100mの金メダルを獲得されました。長内選手は、陸上競技だけでなく、水泳や自転車競技にも参加されており、多岐にわたるスポーツに挑戦されています。

2025年11月 初めて日本で開催されるデフリンピック

デフリンピックとは、「Deaflympics」の略で、ろう者のための国際的なスポーツ大会です。1924年にフランスで開催されたのが始まりで、以来、世界中で開催されています。東京2025デフリンピックは、1924年以来初めて日本で開催されることになります。

東京2025デフリンピックは、1924年以来初めて日本で開催されることになります。大会は、11月15日から26日まで、東京都荒川区で開催されます。

障害のあるアーティストをホームページで紹介 さくら きらめき アートギャラリー



市内で活動されている障害のあるアーティストの方々の作品やインタビューを市のホームページに掲載します。作品への思いや制作風景、ご家族のお話などをウェブ上で紹介することで、市内外に作品の魅力を広く発信するとともに、障害理解の促進を図ります。◆谷村虎之介さんインタビュー(3月公開)

市内小中学校への福祉教育の取り組みアンケート

市内の小中学校において、現在実施されている福祉教育の取組やその課題を調査しました。

来年度以降、市が推進する福祉教育（障害福祉分野）の方針（目的・対象・内容など）の検討材料としたいと考えています。

〈回答から〉

[回答数 小学校 23 校、中学校 11 校 計 34 校 調査期間 1 月 10 日～20 日]

❖福祉教育の取組について

[体験]…視覚、聴覚、肢体不自由など障害の疑似体験やパラスポーツを体験

[聴講]…パラリンピック出場選手など当事者の講演

[調査]…調べ学習や校外学習など

❖課題について

・実施時間の確保（他分野との兼ね合い） ・テーマや講師の選定

❖期待する市の支援について

・福祉教育のプログラム化（講師派遣など） ・実施状況の情報共有